

「SEL 生きる力を育む教育」の特徴的な取り組み

1. 感情を「見える化」する EQ チェックイン



保育園と小学校では、毎朝、「EQ チェックイン」という活動を行っています。

これは、喜び、期待、怒り、悲しみ、嫌悪、恐れなど基本感情を表す表情が描かれたカード（表情カード）の中から、その日の自分の気持ちに近いものを選び、その理由を話すというものです。

この活動は、子どもたちが自身の感情を客観的に見つめ、言葉で表現する練習の場となっています。

この取り組みを継続することで、子どもたちには次のような変化が見られました。

気持ちの表現が豊かに

先生たちからは、「表情カードを使うことで、自分の気持ちをうまく伝えることができなかった子が、少しずつ今の気持ちを伝えられるようになってきた」「泣いていても、泣いている理由を表情カードを使いながら、言葉にできるようになった」という声があり、感情を言葉にする力が着実に育まれています。

また、特別な活動の前後にもチェックインを取り入れることで、楽しかった思い出の裏に、「友達と離れるのが寂しかった」という複雑な感情があることに子どもたちが向き合えるようになり、豊かな心の成長が見られると語っています。

トラブル解決の第一歩に

子どもたちがトラブルを起こしたときも、「今までは先生が仲介に入っていたが、今は自分たちで解決する姿が見られる」「相手の気持ちを考えることができるようになり、お互いがとった行動の裏にある感情を伝え合い、共感することで紛争解決ができるようになった」と、先生は子どもたちの自立的な問題解決能力の向上に驚きと喜びを感じています。

このように、EQ チェックインは、自分の気持ちと向き合うだけでなく、他者への関心や共感力を育む効果も生み出しています。

毎日の EQ チェックインは、子どもたちだけでなく、先生方にとっても重要な時間です。

先生方自身も自分の気持ちと向き合い、感情を調整する力が向上することで、先生同士や先生と子どもとの間に、お互いの気持ちを尊重し配慮する関係が自然と育まれています。

2. 豊かな自然体験を通じた学び:SEL 教育の一環

あつみ地域には二つの保育園があります。SEL 教育を深めるカリキュラムの一環として、地域の自然環境を最大限に活用した体験活動を取り入れています。

この取り組みには、以下の重要な狙いがあります。

感性と情動を育む「体感」学習

自然の中で五感をフルに使うことで、子どもたちの感性(感度)を豊かにします。また、自然の美しさや厳しさが自分の気持ちに影響を与えることを肌で感じ、「情動は環境と深く結びついている」という大切な気づきを得ます。これは、感情をコントロールし、調整する力の土台になります。

社会の仕組みと繋がりを理解する

自然体験には、地域の一次産業(農業、漁業、林業)の体験も含まれます。幼い頃から自然の恵みを受け取るだけでなく、それがどのように人の暮らしや「衣食住」を支えているのかを体験的に理解します。これにより、地域社会の営みや、人と自然の密接な関係に対する認識が深まり、社会性の基礎を築くことができます。

あつみ地域の豊かな環境を「生きた教材」として活用することで、子どもたちは、生涯にわたって不可欠な「生きる力」と「社会を理解する土台」を身につけていきます。



3. SEL 教育アドバイザーによる小中学校の訪問指導・模擬授業



温海地域内には、中学校1校、小学校2校があります。この3校では、SEL 教育を日々の教育に深く根付かせるため、定期的な教職員研修に加え、SEL 教育アドバイザーが訪問指導を実施しています。この訪問指導では、実際の授業の様子を見て、SEL の視点から教員へ具体的なフィードバックを行います。先生方が SEL の実践に対する確信を深め、子どもたちの「生きる力」を育む指導をさらに充実させることを目指しています。

また、日頃の授業の中にSELの視点を取り入れて行うイメージが持てるようにするため、SEL 教育アドバイザーが模擬授業を行うこともあります。

フィードバックは、以下の二点を軸に構成されています。

深い学びと自信を育む指導法

子どもたちが授業内容に高い関心を持ち、自ら考え、自信を持って課題に取り組み、学習の成果を共有し合えるようになるための具体的なヒントを提供します。これにより、さらなる深い学びへと子どもたちを導きます。

情動スキルと社会性を育む実践

道徳、総合的な学習の時間、学級活動といった時間において、子どもたちの社会性や情動スキルを効果的に高めるための具体的な指導のポイントや、教員からの声かけの工夫などについてフィードバックを行います。

